【樹木の部屋】

ヒュウガミズキ（マンサク科トサミズキ属　Corylopsis pauciflora）

←写真－１ヒュウガミズキ（樹形）

撮影日：２０１２年４月２４日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて

写真－２　ヒュウガミズキの葉　→

撮影日：２０１２年４月２４日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて

＜ちょっと一言＞

「日向」については、宮崎県の自生は、後年の発見であり、日向地方ではなさそう。トサミズキに対して小さいので、ヒメミズキが訛った、あるいは、自生発見が京都付近なので、「日向守光秀」から、など諸説あり。枝は細く、多く分岐し、高さ 2～3m になる。葉は対生し、葉身は卵形。縁には鋸歯がある。裏面は有毛だが、後に無毛となる。

3～4 月に展葉に先立ち、小型の花序を下垂する。小さな黄色い鐘が、枝に沢山ぶら下がっているように見える。ヒュウガミズキと似ていますが、トサミズキに比べて花は小さく少ない。花の蕊が黄色で　蕊が紅色（トサミズキ）の違いで分かります。トサミズキは、7～8 個の花を下垂するので、穂状花序だが、本種の花序は、2～3 個の花からなる。